

番号	32	令和8年度公共事業再評価調査				担当課名	漁港整備課																																	
事業名	高潮対策事業				事業主体	静岡県																																		
ふりがな	やいづぎょこうかいがん				関係市町	焼津市																																		
箇所名	焼津漁港海岸																																							
事業採択年度	平成24年度			計画期間	平成24年度～令和13年度																																			
再評価理由	前回再評価後5年経過			工事着手年度	平成24年度																																			
事業費 (百万円)	全体計画事業費		～R6年度	R7年度	R8年度見込	R9年度以降																																		
	8,836		3,689	630	510	4,007																																		
事業量	胸壁工	3,280 m	1,112	155	280	1,733																																		
	陸閘	22 基	7	2	2	11																																		
	水門	2 基	0	0	0	2																																		
事業概要	(1)事業目的 当海岸線には、昭和50年代より防潮堤や陸閘等を整備してきたが、漁船の航路を確保する必要性から、焼津・小川の内港港口が防護できておらず、そこから浸入する津波により背後地の安全が確保されていない等の問題がある。そのため、孔壁、陸閘及び水門の整備を行い、津波による浸水から背後地を防護し、地域住民の生命・財産への被害防止を図る。 (2)事業内容 防護人口：1,827 人 防護面積：54 ha 胸壁工：3,280 m 陸閘 22 基 水門：2 基																																							
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 内港地区について、焼津市が検討する「にぎわい・交流創出事業」の検討範囲として、地域の活性化を図っており、本事業での安心安全の確保はより求められる。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和8年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>2.60</td><td>3.95</td><td>4.94</td><td></td></tr></table> ・総便益 (B) 342.5 億円 (浸水防護便益：342.5億円) ・総費用 (C) 131.3 億円 (建設費：120.5億円、維持管理費：10.83億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) 津波の進入を防ぐことで、漁港背後で就労している漁業関係者の安全が確保されるほか、焼津市に来訪している観光客の安心感が向上し観光産業にも寄与する。 (3)事業の進捗状況 (令和8年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>54.7%</td><td colspan="2">(4,829 百万円 / 8,836 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="3">事業量</td><td>胸壁工</td><td>47.2%</td><td colspan="2">(1,547 m / 3,280 m)</td></tr><tr><td>陸閘</td><td>50.0%</td><td colspan="2">(11 基 / 22 基)</td></tr><tr><td>水門</td><td>0.0%</td><td colspan="2">(0 基 / 2 基)</td></tr></table> <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.60	3.95	4.94		区 分		進捗率	内 訳		事業費		54.7%	(4,829 百万円 / 8,836 百万円)		事業量	胸壁工	47.2%	(1,547 m / 3,280 m)		陸閘	50.0%	(11 基 / 22 基)		水門	0.0%	(0 基 / 2 基)		評価	継続が妥当
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																					
2.60	3.95	4.94																																						
区 分		進捗率	内 訳																																					
事業費		54.7%	(4,829 百万円 / 8,836 百万円)																																					
事業量	胸壁工	47.2%	(1,547 m / 3,280 m)																																					
	陸閘	50.0%	(11 基 / 22 基)																																					
	水門	0.0%	(0 基 / 2 基)																																					
評価	継続が妥当																																							
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 水産庁の特例補助に位置付けられ、国として予算が確保されていることや、令和元年の台風13号により焼津市沿岸部で700軒を超える床上・床下浸水の被害が生じたため、沿岸住民には様々な浸水被害に対する防災意識が高まっている。このことから、今後、順調な進捗が見込め、令和13年度までに完成する見込みである。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																															
評価	継続が妥当																																							
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 新技術であるフラップ（起伏）式陸閘を採用することで、従来の引戸式陸閘に必要な動力が不要になることから、陸閘に付随する電気設備や人力による労働力の削減が図られる。																																							
対応方針（案）	(1)対応方針（案） 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は、胸壁、陸閘及び水門の整備を行うことで、津波による浸水から背後地を防護し、地域住民の生命・財産への被害防止を図るものであり、費用便益比率が1.0を超えていること、事業の必要性及び経済性は高いと認められることから、事業の継続が妥当であると判断される。																																							

1. 焼津漁港海岸 海岸保全（高潮）事業



2. 事業概要

当漁港海岸は、全国2位の水揚げ量を誇る焼津漁港区域内にあり、その海岸背後には、かつおの加工場、冷凍施設や石油タンク等数多くの水産関連施設や住宅が立地している。南海トラフ地震等の懸念が高まる中、焼津内港地区及び小川内港地区において、港口からの津波浸水被害が想定されることから、海岸背後の人命と水産関連施設を守り、海岸保全施設（胸壁・陸閘等）を整備する。



（実施内容）

主要工事計画：胸壁工3,280m、陸閘工22基、水門工2基
 事業費：8,836百万円
 既投資事業費：4,829百万円
 事業期間：平成24年度～令和13年度

3. 事業を巡る社会情勢の変化

■ 背後地の土地利用計画・地域計画等について当初想定との相違と将来見通し

- ・内港地区について、焼津市が検討する「にぎわい・交流創出事業」の検討範囲として、地域の活性化を図っており、本事業での安心安全の確保はより求められる。

4. 事業の必要性（事業の効果）

被害軽減効果

- ・防潮堤を整備することによって背後地の資産が防護されるとともに、焼津市に来訪している観光客の安心感が向上し、観光産業に寄与する。

$$\begin{array}{l} \text{整備前の想定被害額} \\ \text{L1津波による整備前の浸水状況} \end{array} - \begin{array}{l} \text{整備後の想定被害額} \\ \text{海岸保全施設の整備により浸水被害は発生しない。} \end{array} = \text{想定被害軽減額}$$



浸水防護便益(B)→ 342.5億円
 総費用(C)→131.3億円
 費用便益 B/C=2.6

3

5. 事業の進捗状況（令和8年度末見込み）

焼津内港地区

整備前



整備後



撮影位置



小川内港地区

整備前



整備後



撮影位置



4

6. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

区 分	前回(R3)	今回(R8)	主な変更理由
①計画期間	H24～R13	H24～R13 (+0年)	—
②全体事業費	8,836百万円	8,836百万円 (+0)	—

5

7. 今後の事業の進捗の見込み

・水産庁の特例補助に位置付けられ、国として予算が確保されている。

・令和元年の台風19号により焼津市沿岸部で700軒を超える床上・床下浸水の被害が生じたため、沿岸住民には様々な浸水被害に対する防災意識が高まっている。



令和元年10月12日港内越波状況

このことから、今後、順調な進捗が見込め、令和13年度までに完成する見込みである。

6

8 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

新技術であるフラップ(起伏)式陸閘を採用することで、従来の引戸式陸閘に必要である動力が不要になることから、陸閘に付随する電気設備や人力による労働力の削減が図られる。



7

9 . 対応方針（案）

(1) 対応方針(案)

本事業を **継続** する。

(2) 理由

本事業は、胸壁、陸閘及び水門の整備を行うことで、津波による浸水から背後地を防護し、地域住民の生命・財産への被害防止を図るものであり、費用便益比率が1.0を超えていること、事業の必要性及び経済性は高いと認められることから、事業の継続が妥当であると判断される。

8